

大草谷津田いきものの里 自然観察会

夏の谷津田はムシ王国

芳我めぐみ（千葉市）

日 時：2012年8月5日（日）10時30分～12時 天候：晴

参加者：21名（大人15名 子ども6名）

担当指導員：松本美千代・芳我めぐみ

連日の猛暑、その暑さの中参加して下さった方々に今日の観察ルートと下見で見つけた虫（その他少々）60種の名前が列挙してあるA4用紙を配る。ウォークラリーのようにポイントを設けてあらかじめ昆虫・クモその他の写真を透明な袋に入れ吊り下げた。ポイントで見つけたら用紙に書かれた名前にシールを貼ってもらう。シールの色をグループわけしてあるので色を指定すると容易に名前も見つかる仕組み。観察会が終われば見つけた虫の名前が記録として残る。仕掛けから写真全て松本さんの発案・制作である。

諸注意の後、駐車場林縁のシラカシから観察開始。「アオバハゴロモ」の写真を見つけそれに導かれて実物発見。セミの仲間だと説明する。樹の汁を吸うために口が針状にとがっているのを見て納得。観察が済んだところで先ほど渡した用紙に緑のシールをアオバハゴロモに貼る。次いでヤマトシジミ。食草のカタバミに写真を付けておいたのでこれもたやすく発見。今度は赤のシール。見つけたらシールが貼れるということで俄然



オオホシオナガバチ

子どもたちは張り切りだした。少し行って今度は枯れた杉の木にオオホシオナガバチの写真。こちらねらい通りにいた。このハチはキバチの幼虫などに産卵する。木の内部にいるキバチの幼虫をどうやって見つけるのだろうか？しかも幼虫に自分の卵を産み付けるとは。昆虫の世界の不思議に大人は感心していた。次いでハキリバチ、ジョロウグモ… 子どもは何故か森の掃除屋さんオオヒラタシデムシがお気に入り。発見して名前を知りシールを貼る。どんどん用紙にシールが貼れてうれしそう。

めじろんばを過ぎた林縁にタケカレハの幼虫を常連さんが見つけた。「さわっても大丈夫？」と参加者の質問に「毛に毒があると言われてます。毒があってもなくても触られたり掴まれたりするの虫からしたらいやですよ。」と松本さんの回答。成程その通りだ。静かに近づいてじっと観察すると虫と仲良くなれるのだろう。すぐ掴んでしまう私は反省。虫の立場で考えたことなかった。

田んぼに着くころには終了の時間が迫っていた。オニヤンマが水路をパトロールしている。オオシオカラ、シオカラトンボ、ショウリョウバッタ、タマムシ、キアゲハ、アブラゼミ… まさに谷津田は「ムシ王国」

最後に松本さんが自宅の庭で見つけて観察し続けているナナフシモドキ、トビモンオオエダシャクの幼虫、アケビコノハの蛹などを見せる。成長過程は写真で紹介。特別な場所に来なくても身近な場所で観察ができることを話す。

19個シールが貼れたよと昆虫が大好きだという女の子が報告する。名前がわかると親しみが持てますね。楽しかった！などの感想があった。